

革新的医薬品で人類に貢献



日本医療研究開発機構（AMED）の発足から半年が経過した。産学官の連携を強化し、革新的医薬品の創出を促すのが同機構の役割。従来、複数の関係省庁が管理していた研究費を一元的に管理するとともに、研究者を多面的に支援している。一方、政府は成長戦略で、今後の日本の基幹産業として医療健康分野を位置付ける。第27回製薬協政策セミナーでは、産学官からパネリストを迎え、創薬の現状と課題を討議。製薬産業が日本経済再生の原動力となり得るか議論した。

基調講演 経団連ビジョンの実現に向けて



永里 善彦氏

経団連は今年1月、2030年の日本のあるべき姿を見据え、ビジョン策定、「豊かで活のある日本の再生」と題した冊子を公表した。

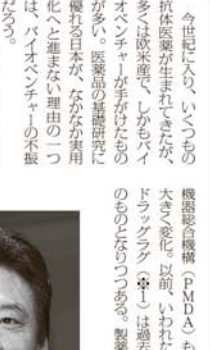
「健康医療分野における貢献」という個別課題は、国家戦略や「財政赤字の継続と長期債務残高の累積」社会保険給付費の急増増加など、現在日本に山積する課題を取り上げ、その対応が、日本経済の再生には不可欠と明示。イノベーション戦略ロバートビジョンがその大きな柱としている。

日本の次代基幹産業 健康医療分野に期待

①成長産業としての強い基礎を確立する②地球規模の課題を解決し世界の繁栄に貢献する③の4つを掲げた。

「健康医療分野における貢献」という個別課題は、国家戦略や「財政赤字の継続と長期債務残高の累積」社会保険給付費の急増増加など、現在日本に山積する課題を取り上げ、その対応が、日本経済の再生には不可欠と明示。イノベーション戦略ロバートビジョンがその大きな柱としている。

パネリスト講演2 大学発シーズの臨床開発におけるベンチャー企業の役割

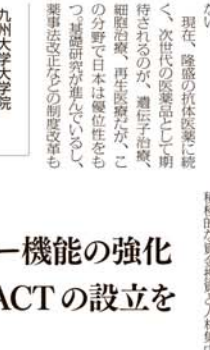


宮崎 直樹氏

抗体医薬が生まれ、多くの欧米産で、しかもバイオベンチャーが手がけたものが多い。医薬品の基礎研究に優れる日本が、なかなか実用化へ進まない理由の一つは、バイオベンチャーの不成熟さ。

「抗体医薬が生まれ、多くの欧米産で、しかもバイオベンチャーが手がけたものが多い。医薬品の基礎研究に優れる日本が、なかなか実用化へ進まない理由の一つは、バイオベンチャーの不成熟さ。」

パネリスト講演3 研究開発型製薬産業の取り組みと今後の課題



三田 正世氏

「抗体医薬が生まれ、多くの欧米産で、しかもバイオベンチャーが手がけたものが多い。医薬品の基礎研究に優れる日本が、なかなか実用化へ進まない理由の一つは、バイオベンチャーの不成熟さ。」

「抗体医薬が生まれ、多くの欧米産で、しかもバイオベンチャーが手がけたものが多い。医薬品の基礎研究に優れる日本が、なかなか実用化へ進まない理由の一つは、バイオベンチャーの不成熟さ。」

パネリスト講演1 日本医療研究開発機構の現状と展望



山手 和之氏

2014年に設立した「国立研究開発法人日本医療研究開発機構」に基づいて、本年4月に策定したのがAMED Dである。

「日本医療研究開発機構の現状と展望」について、山手和之執行役員が講演した。

アカデミア発医薬品の実用化をバックアップ

AMEDは、基礎研究から実用化までの「一貫した流れ」のなす支援により、アカデミア発医薬品の実用化を加速すること。また、政府からの研究費は従来、文科省が、厚生労働省、経済産業省の3省で分担していたが、AMEDの発足により、AMEDが中心となる。

AMEDは、基礎研究から実用化までの「一貫した流れ」のなす支援により、アカデミア発医薬品の実用化を加速すること。また、政府からの研究費は従来、文科省が、厚生労働省、経済産業省の3省で分担していたが、AMEDの発足により、AMEDが中心となる。

AMEDを核にしたオールジャパン創薬に期待

AMEDを核にしたオールジャパン創薬に期待。AMEDの発足により、産学官の連携が強化され、革新的医薬品の創出が促進される。

AMEDを核にしたオールジャパン創薬に期待。AMEDの発足により、産学官の連携が強化され、革新的医薬品の創出が促進される。

<http://www.jpma.or.jp/>

広告

アカデミア発新薬の創出加速

パネルディスカッション 魅力ある創薬日本への課題と展望



（コーディネーター）
東京理科大学大学院
イノベーション研究科教授
橋川 武郎氏

（パネリスト）
豊山 豊氏
米満 吉和氏
多田 正世氏

幅広い視点から
活発な討論がなされた
パネル会場

イノベーション実現のポイント

橋川 A.M.E.Dをはじめ、創薬イノベーション実現のためには、イノベーションを担う人材が不可欠である。イノベーションを担う人材は、大学で培った知識とスキルを、社会で活かす必要がある。大学では、基礎研究を推進し、社会で応用されるような研究を推進する必要がある。

医師主導治験を積極推進 大学の研究者をサポート ゲノム医療データ構築へ

豊山氏
米満氏
多田氏

橋川 A.M.E.Dをはじめ、創薬イノベーション実現のためには、イノベーションを担う人材が不可欠である。イノベーションを担う人材は、大学で培った知識とスキルを、社会で活かす必要がある。大学では、基礎研究を推進し、社会で応用されるような研究を推進する必要がある。



橋川氏（コーディネーター）

橋川氏（コーディネーター）の発言によると、創薬イノベーションを促進するためには、大学と産業界の連携が不可欠である。特に、医師主導治験の推進と、ゲノム医療データの構築が重要な課題となっている。

オープン化と日本の強み

橋川 多くの産業でオープンイノベーションが広がっているが、医療や製薬の分野では、知財保護の問題もあり、他業に比べて遅れている。しかし、ビッグデータが注目されている。オープンイノベーションの推進により、日本の強みを活かすことができる。

国民皆保険制度も強みに

橋川 製薬を基幹産業とするのが、私のオープンイノベーションのイメージだ。創薬研究や臨床試験の推進が、国民皆保険制度の強みを活かすことができる。特に、希少疾患や難病の治療に貢献できる。

ディスカッションのまとめ

- 産学官連携を推進し、基幹産業として日本経済を牽引する製薬産業を目指す。
- 医師主導治験を積極的に推進。その成果を製薬企業に渡すというモデルを確立することによりアカデミア創薬の実用化を推進。
- ベンチャー企業の活性化を図るとともに、究極の個の医療であるゲノム医療の研究を進める。その成果を国内はもちろん、人種的に類似性のあるアジアの国々をはじめ海外に展開し、日本の世界への貢献につなげる。
- 希少疾患・難病に目を向けた創薬を推進。これを突破口として周辺疾患へと薬の適用を拡大していく。

※1 新薬が海外で開発されてから、国内の医療現場で実際に使用できるようになるまでの時間差。諸外国で使用されている医薬品が、日本では承認されず、使えない状態にあることも指す。現在、こういった問題の多くは解消されつつある。

※2 特定の地域や集団の人々を対象に行う医学的調査。健康状態と生活習慣、遺伝子、環境因子などとの因果関係を長期にわたって調べる。

※3 製薬企業などが主導する薬事承認申請を目的とした臨床試験とは異なり、研究者である医師が主体となって行う薬事承認申請に向けた臨床試験を指す。

※4 細胞活動の制御や調整を行う情報伝達システムを細胞シグナル伝達と呼ぶ。これを応用して新薬などを開発する技術が細胞シグナル伝達技術である。